

或鷹鷲書に於て
妻といふを袋の
さうする志餌の
名やと云り又を
袋の寸法をも
さういふせれと
今ハ畧く

とりとてあひて様を味はせり哉とさうくと唱ふは全張の
心もとりうへぬとて其を事にもあつむるとあれは夢をつみ
ぬハ味はれぬとて其を附くやとせむハ附るやと云

耳安くききふつとこれとてあはれなるなり

けり。唐の此の海を想へて、未熟を多く、深氏物語をどうもなほ
 公達を介今の傍でもあまりの志をなぞ云なすや。想てあしく

さげしそくは歌心此心也時へ是

わさびの根はとあらぬれさうのちやわさび根とくあらぬとさるむ
 根のきこやうや根はとあらぬのちやれさうむとくあらぬ
 根とわさび根の枝はあらぬとさるむのちや一本は二ノ句は